

令和4（2022）年第2回栃木県無人自動運転移動サービス推進協議会
議事概要

- 1 開催日時 令和4（2022）年8月25日（木）13：30～14：50
- 2 会議形式 オンラインによるWeb会議（県庁昭和館多目的室3）
- 3 出席者 委員9人、オブザーバー3人（うち代理1人）

4 議 事

(1) 那須塩原市における実証実験の実施結果について

資料1に基づき、事務局が那須塩原市における実証実験の実施結果について説明し、委員から今後の実装を進めるうえでの留意点等について意見を頂いた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 地元路線バスドライバーの採用に感謝する。自動運転バスを運転した経験はドライバーにとっても、今後の実装に向けてよい経験であったと考えている。今後の実証実験でも地元ドライバーの採用をお願いしたい。【委員】
⇒ 今回の実証実験では、本プロジェクトにおいて、初めて地元交通事業者のドライバーに自動運転バスを運転していただいた。今後の実装に向けて、自動運転バスの運転には慣れが必要であるため、今後も是非地元ドライバーに協力いただきたい。【事務局】
⇒ 運転の経験が豊富なドライバーから頂いたコメントは重要な知見となるため、今後に生かしていただきたい。【阪田会長】
- ・ 今回の実証実験は観光地での開催ということで注目度が高かった。公共交通という観点では一次交通、二次交通の連携が重要である。【委員】
⇒ 今回の実証実験は、二次交通充実への自動運転バスの導入可能性を検証するため実施した。二次交通充実のためには、一次交通との連携も重要であるため、交通事業者の皆様には、引き続き検証を進めるべくご協力をお願いしたい。【事務局】
- ・ 今後は各実証実験を横串で検証することも重要であると考え。車両やコース、利用者の特徴といった視点で検証を実施することで、次回以降の実証実験に繋げることも検討いただきたい。【委員】
⇒ これまでの実証実験結果を横串で取りまとめた形での検証結果を次回の協議会で提示したい。【事務局】
- ・ 事故なく実証実験が終了したことに安堵している。地元ドライバーの協力やICT-LED電光掲示板の設置等、安全管理をしっかりと行っていただいたこ

とが大きいと考えている。また、1,000 人を超える方にご乗車いただけたことは大変うれしく思っている。車両の見た目やゆったりとした速度も地域住民の理解を得られた要因の一つと考えている。今後も栃木県と協力しながら自動運転に関する検討を続けていきたい。【那須塩原市】

⇒ 今後もオール栃木という意識をもって各市町と連携しながら実験を行い、本プロジェクトの実証実験の結果を引き続き共有させていただくので、今後の検討に活用していただきたい。【事務局】

(2) 宇都宮市における実証実験の実施概要について

資料2に基づき、事務局が宇都宮市における実証実験の実施概要について説明し、委員から今後準備を進める上での留意点等について意見を頂いた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 国体期間中に総合運動公園の中で、移動を支援するモビリティとしてグリーンスローモビリティ等を走行させる。輸送手段としてではなく、新モビリティを利用した移動自体を楽しむ選択肢の一つとして準備している。自動運転との連携がどこまでできるかわからないが、可能な限り連携したい。

【宇都宮市】

⇒ 国体に訪れる観客の移動を自動運転バスで全て担いきれないが、自動運転を移動手段の一つとして来訪者に体験していただきたい。移動面から国体を盛り上げていけるよう、連携できればと思っている。【事務局】

- ・ 県施設調整課では総合開会式、総合閉会式における輸送計画を検討している。多くの方が参集することによる交通渋滞の可能性が懸念されるが、自動運転バスと連携して取り組みたい。【県 国体・障害者スポーツ大会局施設調整課】

⇒ 交通量が多くなることや普段発生しないような事案が起こる可能性もある。関係機関と連携しながら不測の事態にも迅速に対応できる体制を構築したい。【事務局】

- ・ 国体は全国的に見ても大きなイベントである。本プロジェクトの認知度も大きくなってきているが、国体 HP に本プロジェクトのリンクを掲載するなど、県総合運動公園にいらっしゃる前に来訪者に知っていただき、会場への移動に活用いただけるような動線をつくることが重要と考える。また、メディアに対しても、国体開催と連携したイベントであることが伝わるようなキャッチコピー等を作成する等、引き続き記事として取り上げていただけるような策を検討いただきたい。【委員】

⇒ 国体 HP へのリンク掲載について今後調整していきたい。また、東武鉄道の駅での広報について調整中である。【事務局】

- ・ パラスポーツの注目度も高まってきている。自動運転バスにおいて、ハンディキャップのある方の利用について、何か連携できないことがないか検討していただけると交通事業者にも参考となると思う。【委員】
 - ⇒ 今回の実証実験においても、ハンディキャップのある方の自動運転バス利用の可能性はあるため、対応について検討させていただきたい。【事務局】
 - ⇒ ハンディキャップのある方が新モビリティを利用された際の声が聴けるとよいと思う。【阪田会長】